

国語の力をつけるためのポイント

～苦手を克服するために～

～授業でのポイント～

- ① 授業に前向きに取り組む。
(私語をせず、よく話を聴く。忘れ物をしない。提出物は期限を守って必ず出す。)
- ② 自分の意見をしっかり書いたり、発表したりする。
- ③ 授業で「分からないな。」と思ったら、そのままにせず、質問する。

～みなさんの悩みから～

Q. 国語の記号問題を攻略するには？

A. 正解を探すのではなく、間違いを探して消去法で選ぶこと。

出題者は、1つの選択肢の中に、正しいことと、間違っていることを一緒に入れて惑わそうとします。つまり、正解だけを即座に見つけるのはとても難しいということです。間違いが1つでも混ざっていれば、その選択肢を消去し、残ったものが答えになります。

Q. 古文・漢文を攻略するには・・・

A. ①必要単語を覚える。→ ②主語を意識して読む。→ ③古文に慣れる。

① まずは必須の単語を覚えましょう。ただし、古文は全ての単語が分からなくても十分、パーフェクトは狙えますから、本文に出てきたものを全て覚える必要はありません。

② 古文が苦手になってしまう最大の原因は、「主語が分からなくなる」ということにあります。古文では、主語が省略されていることが多く、誰が動作しているのかが分かりにくいのです。

主語を見極めるポイント

1. 「の」に注目する。

古典の中に出てくる「の」は、「が」に置き換えられることが多く、その上に主語となる人物がくることがある。

2. 「と」に注目する。

会話の部分に「 」がついていないことが多いのも古文の特徴です。「と」に注目することで、会話文を判別しやすくなり、おのずと主語も分かるようになります。

- ③ 古文・漢文は、中学校の3年間でふれる回数が他の文章に比べて少なく、みなさんになじみがありませんから、不安になるのも当然。ただし、それはどの中学生にもいえることなので、裏を返せばチャンスともいえます。なぜなら、みなさんには、PUTがあるからです。PUTでは、みなさんに数多くの古典の問題を解いてもらいます。
しっかり慣れましょう。

Q. 作文が書けるようになるには・・・

作文が書けない理由は、大きく分けて3つあります。まずは、自分がどのタイプかを見極めてください。

- ① 書く内容はあるが、書き方が分からない。
- ② 書く内容がないので、書けない。
- ③ 書く内容がないし、書き方も分からない。

A. ① 作文の書き方のプリントを参考に形を覚えてみる。

② ・作文の条件をよく読み、出題者の立場から書くべき内容を決める。

※書くべき内容は、条件の中に書かれています。

・毎日の生活の中で自分が考えたことがないことを考える機会をつくる。

- ① 作文は減点方式で採点されます。自分で文章を作るのが苦手な人は、ぜひ、型を覚えてそれを応用してみてください。
- ② 作文で見られるのは「書く力」です。「お題の内容が書けない…」という理由は、「今までに考えたことがないから」という理由が多いものです。この1年で、自分が普段考えないようなことにもしっかりと目を向けて自分の「意見」とその「理由」をもつクセをつけましょう。

(例) 「自分が一番大切にしているものは何か」

「人とのコミュニケーションで最も大切なことはなにか。」 など



☆『整理と対策』の使い方 ☆

- ① 解き方やポイントをまとめてあるページを中心に、ノートにまとめ直してみる。
(特に、文法や熟語、漢字などは何度も繰り返し学習して覚え込むこと。)
- ② 文章問題は必ず2回以上はやる。
※ただし、何度も繰り返しやって内容を覚えてしまっただけでは意味がありません。同じ問題に取り組む際は、ある程度の時間をおいてからにしましょう。
- ③ 分からなかった問題は決してそのままにせずに、自分で調べたり、先生や友だちに聞いたりして必ず分かるまで取り組みましょう。

学習は一朝一夕に成果が上がるものではありません。毎日の努力が大切です。